



137号
2021年 5月・6月



あした あした きょう きょう
明日は明日、今日は今日

Tomorrow is tomorrow, today is today



36 回目のミニ印日文化祭

2021年3月13日の夜、インドと日本の間の長い絆を祝いながら NKK が 36 回目のミニ印日文化祭をオンラインで開催した。このイベントは何十年も例年イベントとしての長い歴史を持っているが、今年は初めてバーチャルで行われた。続いているパンデミックのせいでこの方法は必要であり、すべての主催者、パフォーマンス、視聴者がこの不安な時代に自宅の安全で快適な環境でそれを楽しむことができるようにした。このような活動はこれが最初のベンチャーだったが、大成功を収めた。素晴らしいデジタル招待状はスミトラ・ゴーシュさんによってデザインされた。このプログラムには、98 人が出席して楽しんだ。パフォーマンスは事前に録画、編集され、全ての人々がオンラインで視聴できるようにした。いくつかのネットワークの問題を除き、それはグリッチなしでスムーズに続いた。

スプラティク・シルロイさんが司会を担当し出演者を紹介し、プログラムはアバラジット・バナジーさんによるベンガルと日本の曲のバイオリンメドレーで始まった。その後、NKK の会長のプーナム・ナンド・デイさんの短いスピーチがあり、パンデミックの現在の状況について前向きな言葉を述べられた。このような時代でも、オンラインプラットフォームを利用して、様々なイベントを開催し、印日文化祭を開催できたことの素晴らしさを強調された。スピーチに続いて、木村弓の「いつも何度でも」をドラン・シンハさんが美しく歌った。次は、ススミタ・ストラダールさんとリヤ・チャタジーさんの 2 人が日本の有名な俳人に書かれた俳句を朗読した。この優雅に流れる日本文学の演出の後に、カストゥリ・

アディカリーさんによる伝統的なベンガル・ラビンドラヌリティアのダンスパフォーマンスで、ラビンドラサンギート「ニール・ディゴンテ・オイ・プーラー・アグン・ラグロ」を踊った。続いて、ジョン・デンバーの名曲「カントリー・ロード」の日本語版をジュマ・チャクラボルティさんがボーカルとハーモニカで演奏した。

この後、ネハ・ホルダーさんが選んだ、絶賛されたアニメ映画監督の新海誠監督の「だれかのまなざし」、とても感動的なアニメ短編映画が上映された。続いて、ベンガル語と日本語の両方で、ロハン・バタチャリヤさん、アヌバヴァ・バドゥリさんとアンカナ・バスさんによる「Voice of Spring」というタイトルの 4 曲のメドレーが演奏された。続いて、レスミ・バネルジーさん、アニヤ・バルアさん、モシナ・カーンさん、スバンドウ・マルさん、デボリナ・ダスさん、エナクシ・ゴーシュさん、ミナ・ラジバンシさん、スミリテイマン・バルアさん、バブリ・チョウドリーさんによるスキット「日本人の三人娘」があった。スキット中に俳優が物理的に対話できないという問題は、パーフォーマーによるナレーションを伴うアクションをアニメーション化することによって見事に解決された。ベンガルの田舎の住民と日本人の訪問者の間の言葉の壁による最初の誤解についての楽しいコメディだった。1985年から2020年にかけて開催された過去の印日文化祭の一連の写真とクリップが上映され、過ぎ去った時代の懐かしい思い出を呼び起こした。

3 ページに続く...

おめでとう御座います!



コルカタの三人の男性(NKK メンバー)が短編映画コンクールで南アジアの部で 2 位
詳細は下記のリンクに:

http://timesofindia.indiatimes.com/articleshow/81727134.cms?utm_source=contentofinterest&utm_medium=text&utm_campaign=cppst

Nihongo Kaiwa Kyokai Society, 2B, Shivangan, 53/1/2, Hazra Road, Kolkata- 700 019

E-mail: write2nkks@gmail.com

Visit us online: <http://www.nkks.org.in>

田村理紗さんが言われたこと



こんにちは。
今号では私のインタビュー記事を組んでいただきありがとうございます。

私の名前は田村理紗（たむらりさ）です。ファーストネームの理紗の漢字には、‘良妻’の意味が込められていると両親から聞いています。料理の‘理’と裁縫で使う‘糸’が‘紗’の漢字に含まれていることからです。

この名前は、たまに、ベンガル語の女の子の名前‘Risha’のようだとと言われることがあります。そう思いますか？

生まれは埼玉県です。ですが、東京の新宿にて長く一人暮らしをしていました。

私は教育学を志し、早稲田大学で学びました。教職の資格も得ており、日本の学校で、ライセンスのある教員として、英語を教えることができます。私は、教育とは、全ての人間が等しく与えられるべき学ぶ権利の実現であり、教育こそ人類や国の発展の根幹を成す部分だと思っています。教育なくしては人の成長はなく、同時に様々な意味で、世界の豊かさもないと信じています。ですので、私は、当地の日本語教師の方々や、どんな形であれ、教育に従事し学習の手助けをする方々を、心から尊敬しています。ご自身で習得された日本語の語学力や知識のみならず、日本のマナーや文化的背景をも、新たな世代へと教授することは、とても誇り高き立派な行いです。

また私は、いつの時代も、その時代の最先端テクノロジーや考え方が応用される軍事領域や、日本の自衛隊の PKO をはじめとする国際協力活動やその理念にも関心が高く、結果、防衛省の仕事を選びました。自衛隊の駐屯地や基地において、国際協力活動に貢献する隊員の育成（教育）に関わることを希望していますが、大きい組織で働くとは、なかなか思い通りにいかないもので、全く別の任務を与えられておりました。

具体的には、私は東京新宿に所在する防衛省本省にて、日米安全保障同盟に基づき米軍との間で行われる FMS に携わっていました。これは、米軍とのインターオペラビリティを目的とし、米軍と同種の装備品/武器、戦車、戦艦、戦闘機等を米国国防省より調達するものです。これは物だけではなく、訓練、整備、教育のノウハウや技術支援等役務調達も含まれます。軍事機密情報のため、民間では行えず、政府間で特別に取引するものです。

この関係で、私は自衛官ではありませんが、アメリカの米軍学校で教育も受けました。国際コース

であったため、アフリカから南アメリカ、中東、欧州アジア諸国の世界中の軍人、国防関係者と知り合いになりました。今でも連絡を取り合っています。この時はまだ、インドとのご縁はありませんでした。

その後ここコルカタに来るまでの数年間は、インドと日本の防衛協力を携わっていました。中でも私の担当は、有事に備え、インド軍と我が国自衛隊の装備品/武器のインターオペラビリティを向上させることでした。自由で開かれたインド太平洋の実現という同じ目標を掲げる両国にとって、軍事的な基本システムを共有することはとても重要なことなのです。

この防衛協力は、具体的には、日本の防衛産業が有する高い装備品/武器製造テクノロジーを、インドの国防産業へ移転します。これにより、インドの装備品/武器国産化が図られます。インド軍が日本と相互互換性のある装備品/武器をより配備しやすくなる環境整備です。これはまた同時に、大きな視野で見て、インドの産業振興にも繋がるものです。

さて、話が大幅に込み入ってしまいましたので、別の話題へ。

私は今回でインドへは5度目の訪問になります。東京とデリーは飛行機で片道約9時間程かかりますので、1度の訪問で何都市か周遊することが多かったです。前出の仕事の関係で、インド国防省やインド軍統合参合本部等とのミーティングで何度かデリーへ、またインド国防産業やインド国防軍事技術研究所への視察等で、ムンバイ、ベンガルール、チェンナイへの訪問もあります。しかし、コルカタは今回初めてとなります。まさか、今度は外務省員として、日本文化・広報活動を担い、コルカタに長期滞在することになるとは露程にも思っておりませんでした。運命とは、分からないものです。

私はコルカタには2019年より、約20ヶ月程滞在しています。ただその内の12ヶ月間は、言わばもがな、皆様ご存知のとおり、新型コロナウイルス感染症の蔓延で、失われた時に等しくあります。インド国内の旅行はおろか、市内の探索も十分に行えていません。これは私をとっても悲しい気持ちにさせます。すぐにでも、タージマハル、ジャイプール、ジャイサルメール、ケララ、ゴア、ヴァラナシ、アッサム、そしてダーズリン等に赴き、多くのことを見て経験したい気持ちでいっぱいです。

しかし、このウイルスでインドのみならず、世界で多くの方が亡くなっていることを私達は忘れてはなりません。貴方も私も無症状のウイルスキャリアであるとの認識を持ち、特に高齢者や幼い子供の命のために、感染を広げないことは、今最も重要なことであることを私は理解しています。

次ページに続く...

前ページから続く...

そのためには、個人の我はおさめ、社会性を優先し、不用不急な外出を控える等の行動を取るべきだと、日々自分に言い聞かせています。早く感染リスクがなくなることを願っています。また改めて、お亡くなりになられた方、そのご家族へご冥福をお祈りします。

さて、気分のリフレッシュには、私はボリウッド音楽を聴きます。ヒンディー語の曲に加え、パンジャブ語の曲も好きです。グジャラート語の曲もたまに聴きます。ベンガル語の曲は、残念ながら、私の大好きなヒンディー語の歌である‘Duniyaa’のカバーをした、バングラディッシュの歌手 Nish 氏しか分かりません。あまりよく知らないのです、教えていただけるとうれいしいです。

もしも日本語シンギングコンテストならぬ、インド言語シンギングコンテストがあれば、私は Ms. Dhavani Bhanushali の歌で参加します。それくらい彼女の曲が大好きです。‘Vaaste, Leja Re, Nayan etc...’どれも素敵な曲ばかりです。

最後になりましたが、日本語シンギングコンテストや印日文化祭をはじめとする NKKS のイニシアティブに改めて感謝を申し上げます。こちらの会報をご覧の多くの日本語学習者の皆様が、日本語学習や異文化体験を通して、国際的な広い視野を養い、人として豊かに成長していくことを期待しています。また、日本文化紹介イベント等でお会いできる日を楽しみにしています。みなさまどうかくれぐれもご自愛ください。

田村理紗
副領事、
在コルカタ日本総領事館

36 回目のミニ印日文化祭 (1 ページから続く)

プログラムの終わり近くに、NKK のチーフパトロンのニガム和子先生が、過去の懐かしい思い出を話され、若いメンバーに年間を通して行われるパフォーマンスをアーカイブに追加し、記録することに自発的に取り組むように依頼された。プログラムは、NKK の副会長であるアンジャン・バネルジーさんの感謝の意で終了された。バネルジーさんは、困難にもかかわらず、第 36 回ミニ印日文化祭を大成功に導いたすべての関係者に感謝の意を表した。来年もまた会えるようリハーサルやパフォーマンスができるようになりたいとの思いを表明された。

第 36 回ミニ印日文化祭は大成功で、オンラインでも実際に楽しむのと同じような経験だった。主催者とパーフォーマーの素晴らしい努力に感謝を伝える。彼らがいなければ、今年のプログラムを実施して参加することは不可能だった。次の印日文化祭は、私たち全員が実際に会える場所になることを願っている。

ドエル・ナース

期待と興奮の

第 24 回目印日学生会議 - 2

パンデミックが問題となり、印日学生会議の実施方法は、両国の学生と主催者の間で同様に懸念事項となった。しかしどのメンバーにも交流が簡単にできるように、テクノロジーは日々開発されている。それで 2021 年 2 月 20 日から 21 日まで、第 24 回目の印日学生会議はバーチャルフォーマットで開催され、コルカタから 10 名、日本各地から 10 名が参加する予定となる。

もちろん、学生が実際に交流なしでメッセージやビデオ形式だけでやり取りすることは非常に困難だ。何年間にも渡って会議の時インドと日本両国の間には実際の交流があり、両国から生涯の友人となる学生を連れてきた。しかし、今年の会議に参加する全メンバーは、毎年学生同士が顔を合わせて交流する会議に参加した学生と同じ不屈の精神を持っている！インド・日本外交関係の 40 周年の際映画が最初に議論されたように、第 24 回目の印日学生会議も映画の助けを借りて、双方の学生間の理解の架け橋を作ろうとしている。

会議の主な目標は持続可能な開発目標について話し合うことであり、各学生はこの会議に独自の期待を抱いている。インド側のコミュニケーターの、ディープロ・バネルジーは「両国の間に長期的な絆」を築きたいと述べており、これはほとんどの学生の期待と同じだ。ほとんどの学生は、日本側の新しい友達を作り、彼らの文化をより深く理解することを期待している。日本のポップカルチャーに興味を持っている学生の中には、国の文化的側面と外交的側面を見て、日本側の学生がインドについて同じことをどのように理解してくれるかを楽しみにしている。

前回の IJSC に参加した学生たちは、この会議の準備を開始した時からまったく異なるプラットフォームで新しいバージョンの会議を体験することを楽しみにしている。私はインド側の委員長を務めることを光栄に思っており、日本の若者がパンデミックと彼らの厳しいライフスタイルにどのように取り組んでいるかを理解すると同時に、彼らの文化を理解することを心から楽しみにしている。他の皆と同様に、私も生涯の友達を作るのを楽しみにしている。ありがたいことに、Facebook や Instagram のようなアプリケーションの助けを借りてこれが可能になりそうだ！

4 ページに続く...



アンロック 日記-2



スマナ バタチャルジー

この Covid-19 のパンデミックが私達の人生を劇的に変えた。こんなに長く家にいるなんて想像もできなかった。でも今はこの状態は普通、「ニューノーマル」という。私は家から出るのは必要な時だけだ。アンロックの進展は 6 月から始まったが、私はまだ前と同じように規則的な生活を維持している。本を読んだり、音楽を聞いたり、映画を見たりしているし、インターネットで新しいことを学んだりして時間を過ごしている。すべての祭りの時も家の中で過ごした。私はまだ集まりを避けている。外出する必要があるときはいつでも、私はすべての Covid ガイドラインに従う。

1 月と 2 月には、Covid の症例は減少していたが、人々の無神経さとすぐある選挙のせいで、再び増加している。レポートによると、新しいケースでは、多くの人がコロナの独特な症状を持っていないようだ。もう一度ロックダウンしてほしくない。人々が危機を理解し、ガイドラインに従うことを願っている。状況はすべてすぐ良くなる時代が来ると期待しながら、又私達はお互いに会うことが出来ることを望む。

第 24 回目印日学生会議 討議、交換、友情

1997 年に印日学生会議が開始されて以来今年の第 24 回目の会議は、バーチャルメディアで完全にオンライン会議だった。いくつかの小さい障害はあったが、すべてが問題なくスムーズに進み、日本人メンバーは、誰もが安心して対応できるように多大な努力をし、問題が発生した場合は、迅速に解決した。

会議の開始に先立ち、オンラインでの交流やミーティングの中で、インドと日本の学生の学生生活について学び、私たちの食べ物と味、社会とその類似点、相違点、問題、そして重要な文化的出来事についても学んだ。私たちはメンバーと数え切れないほどの交流やミーティングをし、新しい絆や友情を築いた。最初は少し恥ずかしかったが、すぐにお互いのことを知ったり、両社会の問題を知ったりして、会議の公式の手続きや働きに従って解決策を提案するだけでなく、新しい友達を作り始めた。

食べ物、観光、旅行、文化、そしてアニメーション、漫画などの大衆文化、そして映画のことをお互いに学び、何時間も話し合ったのはすべてのメンバーにとって特に興味深いものだった。また、東京で開催された第 23 回 IJSC でインド代表団の一員であったインド側のメンバーによる、日本人メンバーのインドへの訪問とツアーに関する話、彼らの経験と物語、そして同じことが議論された。また、食べ物の好みや選択、両国の食べ物を食べた経験についても話した。辛さのレベルは、特にホットな話題だった。会議のためにグルー

プに分けられ、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) について話し合った。私たちはお互いの国について学び、それらの開発目標を解決する方法についてのアイデアを提案することに熱心だった。私たちは共通の問題を見つけ、仲間の人々に利益をもたらすために両国で使える統一された解決策を思いついた。

映画は芸術の一形態であり、芸術は社会と生活そのものの反映に他ならないので、映画について議論することはこの会議の重要な部分だった。日本とインドの代表団は、SDG の目標とそれぞれのグループに従って取り組んだ両社会の問題を紹介し描写した適切な映画を提案した。メインの会議が終わり、さよならを言って連絡を取り合うことを約束する時間が来た。送別会は、IJSC で最後に参加する人にとって、一般的に感動的な瞬間だった。しかし、皆にとって初めて出会うメンバーも含めて、やがて親密になり、友情を育み、協力し、両国を少しでも近づけるようにする私たちの旅を始める時だった。

シバム ディワンジ,
IJSC グループ 1 のリーダー

期待と興奮の

第 24 回目印日学生会議 - 2

3 ページから続く...

最後に、森山直太朗が曲「さくら」で歌っているように、「さらば友よ またこの場所で会おうさくら舞い散る道の上で」と言い、バーチャルモードで会える日本側の友人に近い将来実際に会える日が来るという興奮が続いている。

ラトゥラ ダッタ

日本語クロスワード
(5月 - 6月)

1	2		3	4	5
6			7		
8		9		10	
		11	12		
13					
		14			

ACROSS

- 1) One way trading
- 6) Cotton
- 7) Short term
- 8) Logical theory
- 10) Furniture
- 11) To listen attentively
- 13) Job relocation
- 14) Manly/brave

DOWN

- 1) Completely changed
- 2) To play drums
- 3) Song
- 4) Banquet
- 5) Unpleasant to hear
- 9) Constant attendance (Medical)
- 12) Interest rate

モハシユウエータ バス ムカルジー

(3月-4月)

日本語のクロスワードの答え

1	2	3	4	5
あ	て	は	ず	れ
6	か	る		7
わ				い
8	が		9	き
た			す	ま
10	み	11	え	
だ		ご		め
		12	る	13
し		は		か
14	あ	ん		15
い				き
				り

5月・6月プログラム

- ◆ オンライン フレッシュヤーズ ウェルカム: 2021年5月16日 17:00時から
- ◆ オンライン 「アプリ」 を使った日本語勉強法: 2021年6月13日 17:00時から
ソハム・パルさんにより
(リンクはNKKフェイスブックとウェブサイトで)

編集者: トヌスリ チャタルジー

桜... 日本語会話協会の隔月のニュース レター

綴り換え- 71

下記のボックスに言葉を元の状態に戻し、丸字をつないで答えを見つけましょう

ことわざは?



1. みずね (Mouse)

○		
---	--	--

2. じもこ (Small letter)

○	○	
---	---	--

3. はちしゃく (Japanese bamboo flute)

○	○	○		
---	---	---	--	--

4. のもかし (Items for rent; for loan)

	○	○	
--	---	---	--

ショントウ デブナート

綴り換えの答え - 70

- 1. みょうじ
- 2. ざるをえない
- 3. きかい
- 4. けいざい
- 5. かるがるしい
- 6. わざをみがく
- 7. るすばんでんわ

み	ざ	る	き	か	ざ	る	い	わ	ざ	る
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---